

# 地域包括ケアシステム

(医療と介護の連携)

—行政との連携進捗状況—

## 下都賀郡市医師会（栃木市）の取り組みについて

河口医院（下都賀郡市医師会） 河口 達仁

### 1、はじめに

下都賀郡市医師会は在宅医療連携整備拠点事業を栃木市と壬生町の2か所で申請しました。今回は主に栃木市の取り組みについて紹介させていただきます。

栃木市は合併により西方地区から藤岡地区まで面積が広くなりました。人口は平成29年で16万人、高齢化率は29%となっています。以前3つあった病院が1つに合併され、基幹病院は「とちぎメディカルセンター」で、急性期病床数307床、慢性期病床数250床です。また、栃木市内の一般診療所は108か所です。

栃木市としては平成30年度より第7期の高齢者保健福祉介護保険事業が始まります。これにより地域包括ケアシステムの構築をめざしてゆきます。重点施策としては、①介護予防の推進、②介護保険サービスの推進、③認知症施策の推進、④在宅医療・介護・関係機関との連携の充実などがあげられます。

施策の計画実行を検証する会として市では地域包括ケア推進会議を開催しております。また市と各団体が社団法人である地域包括ネットワーク（あったかネットとちぎ）を立ち上げ、ここで定期巡回随時対応型訪問介護訪問看護など独自の事業を行なっています。

### 2、在宅医療・介護連携推進事業について

栃木市医師会は平成28年度より2年間、市と協力して在宅医療拠点整備事業に取り組んできました。今までの事業内容と今後の課題をお伝えしたいと思います。

#### ①地域医療・福祉資源の把握及び活用

「在宅医療と介護マップ」を作成しました。これは、事前アンケートで掲載可とした医療機関（23施設）を始め、歯科医院、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所などの在宅医療に関するデータが記載されており、各医療機関や関係施設に配布しました。

#### ②多職種連携会議の開催

在宅医療介護連携推進会議を毎月1回開催しました。これはコーディネーターが中心となり、各職種の代表が集まり、事業の推進のための活発な議論を行いました。

#### ③在宅医療に関する教育・研修

多職種による研修会を「あじさいの会」と命名し、平成29年度に4回開催しました。それぞれ訪

問看護、薬剤師、理学療法、歯科が主幹となり、テーマをきめてミニレクチャーやグループワークなどを行いました。毎回40名位の参加で充実した内容になりました。

#### ④切れ目のない在宅医療・介護連携体制の構築

現在、栃木市では在宅療養支援診療所（支援診3）が21か所あり、更に在宅診療を専門としている強化型（支援診2）が1か所あります。他の市町村と比べ、在宅医療実施数としては比較的多いと思われます。更に「栃木市在宅医療連携会」を結成しました。これは開業医の在宅医療の協力、支援をしていく会で、現在8名の先生に参加頂いております。

またとちぎメディカルセンターとちのきが後方支援病院になることが決まり、今後登録医療機関の在宅患者の入院受け入れを確実にしてもらうことになり、更に在宅医療がやりやすくなります。

#### ⑤在宅医療・介護連携に関する相談事業

在宅医療コーディネーターをとちぎメディカルセンターへ委託し、看護師と事務の2人で業務をして頂き全ての業務が円滑に進みました。

#### ⑥情報共有の取り組み

「どこでも連絡帳」の使用による連携を推奨し、今まで2回講習会を行いました。今後も普及啓発を行います。また多職種の連携のルール作り（とちぎルール）を行いました。

#### ⑦地域住民への普及啓発

平成29年9月に「成年後見制度」、10月に「看取りケア」、11月に「まちぐるみで認知症高齢者を支える」というテーマで市民向けの特別講座を栃木文化会館で行いました。参加者も200人位で盛況でした。

### 3、今後の課題

以上さまざまな取り組みをおこなってきましたが、皆様の尽力によりかなりの成果が得られたと思われま。今回この事業は終了し平成30年4月より市へ移行することになっています。今後医師会が関与するのが在宅医療、認知症、多職種連携などの部分で、特に在宅医療の更なる普及を目指し、市と協力していきたいと思ひます。既に市では地域包括ケアの施策がなされていますが、コーディネーターの配置や多職種会議などの部分を継続し更に発展させて頂きたいと思ひます。